

〈幼稚園教育〉

伸び伸びと自己表現する援助の工夫

ー地域行事を生活に取り入れることを通してー

与那原町立与那原東幼稚園教諭 嘉手苅 すみ江

内容要約

幼児が伸び伸びと自己表現するために、心が揺さぶられ、その子なりの表現しようとする姿を温かく見守り、表現する喜びを十分に楽しむことができる援助の工夫をした。実践では、地域行事を生活に取り入れることを通して、感動を共有し、環境構成や援助の工夫を試みた。

幼児一人一人が、感動を様々な表現する体験を積み重ねて、その子らしい表現をしながら、豊かに表現しようとする意欲を育てることができた。

【キーワード】 幼児期の表現 その子なりの表現 環境構成 教師の援助 地域行事の教材化

目 次

I	テーマ設定の理由	1
II	研究の視点	1
III	研究内容	2
1	表現についての基本的な考え方	2
2	伸び伸びと自己表現する保育の展開	2
3	幼児に楽しく関わらせる地域行事	4
IV	保育実践	5
1	活動名	5
2	活動設定の理由	5
3	保育の目標	6
4	保育の視点	6
5	援助の工夫	6
6	活動の実際	7
7	検証保育指導の実際	8
8	保育の省察	9
9	幼児の変容	9
V	研究の成果と今後の課題	10

<幼稚園教育>

伸び伸びと自己表現する援助の工夫

—地域行事を生活に取り入れることを通して—

与那原町立与那原東幼稚園教諭 嘉手苺 すみ江

I テーマ設定の理由

社会の急激な変化で生活様式や価値観が多様化している。その為、幼児の生活も大きく変化し、テレビやテレビゲームなど室内での遊びが多くなり、自然と触れ合ったり異年齢の子ども達と遊んだりする直接的、具体的な体験が不足している。また、家庭も地域との関わりが希薄になり、地域行事に参加する割合が減少し、人と関わる力や感情表現の乏しさなど様々なことが指摘されている。

平成12年度から施行されている『幼稚園教育要領』の「表現」の領域では、「多様な体験を通して豊かな感性を育て感じたことを表現する意欲を養い、創造性を豊かにする」ことをねらっている。また、幼稚園教育の基本に「幼児は自己を十分に発揮することにより発達に必要な経験を得ていくものである」ことを重視するように述べられている。すなわち、幼児期における表現はその子らしい生活そのものであり、表現することで感じたこと、考えたことが意識化され、確かめられて経験として定着し、豊かな感性を育てることになる。日常のなんでもない表現一つ一つにその子らしさを発見し、生かされ合う幼稚園教育が求められる。

ところで、これまでも「伸び伸びと自己表現する幼児」を求めて保育実践をしてきた。また、「資料館見学」や祖父母を招いて一緒に伝承遊びを楽しんだり、地域の老人会の方にグランドゴルフを教えてもらったりする等、地域を幼稚園生活に取り込むことも行ってきた。その中で、幼児が伸び伸びと自己表現するためには教師自身もいろいろな場面で積極的に表現することの大切さや、一人一人の育ちの違いに応じ、安心して表現できる環境づくりをすることの大切さがわかった。また、その子のよさを認め全体場で知らせていくことで、幼児は自分のやることに自信がもてるようになり、更に、充実した遊びになること等がわかった。

しかし、一方で、地域教材で何を育てたいのか見通しが持てないままの活動になってなかったか、幼児の表現を育てるとは、どういうことなのか考えさせられることが多い。

表現の豊かさは、まず生活体験の豊かさを土台にしている。自分の周囲と新鮮な感覚で出会い、じっくり触れ合うことで心が動かされ表現せずにはいられない生活体験が積み重ねられた結果に他ならない。一人一人の幼児が自分の気持ちや考えを素直に表現することを大切にし、表現する楽しさの中で充実感を味わってほしいと考える。

そこで、これまであたりまえに受け止めていた地域に目を向け、地域行事を教材化し、幼稚園の生活に取り組む工夫をすることで幼児の生活体験は豊かに広がり、より充実した園生活を過ごし、伸び伸びと自分らしく表現できる幼児の育成ができると考え、本テーマを設定した。

II 研究の視点

地域行事に楽しく関わることを通して、伸び伸びと自己表現する楽しさを味わわせる援助の工夫を探る。

具体的な研究の視点

- (1) 地域行事を教材化し、それに楽しくかかわる援助の工夫
- (2) その子なりの表現を認めて生かす援助の工夫
- (3) その子なりの表現を引き出す環境構成の工夫

Ⅲ 研究内容

1 表現についての基本的な考え方

(1) 伸び伸びと自己表現する

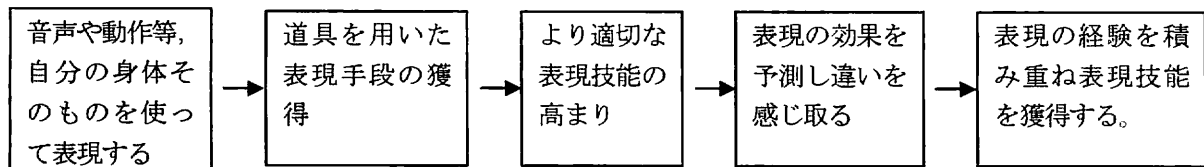
『幼稚園教育要領』の「表現」の領域では、「自分なりの表現を楽しむ」ことを強調している。幼児期において自分なりに表現することの楽しさや満足感を味わいながら自分の世界を作って行くことは、その後の発達にとって重要なことである。表現することを通して「その子らしさ」を育てることである。これまで、「表現」は、ある特定の表現活動として捉え、表面的な結果として、表れることに目が行きがちであった。しかし、「その子らしさ」を育てるために重要なこととして捉えると、特定の表現活動に偏るのではなく、幼稚園生活全体の中で幼児一人一人の「自分なりの表現」が大切にされ伸び伸びと表現する場が保障されなければならない。

本来表現とは、「自分の気持ちや心の中にあることを外に表すこと」である。発達や、生活経験の違いの大きい幼児期は、その感じ方、考え方、また表現の仕方もおのずと様々である。また、自分の欲求を満足させる素朴なものから、友達と相互に伝え合って楽しむなど幅広い。「自分なりの表現」を十分に楽しむ事が大切にされるとやがて友達の表現も受け止め理解しようとする力が育ち、共に育ち合うようになる。

(2) 表現の発達

① 技能的側面における発達

幼児は発達の初期において音声や動作等、自分の身体そのものを使って表現する活動から下図のような段階を経て、最終的には、表現の内容を整理し、表現の手段を選択し、自分の表現をコントロールする技能の獲得に至る。



② 幼児期における表現の特徴

- ・ 自他の区別がつかなかったり、現実と空想の世界、過去と未来など＜未分化による表現＞
- ・ 自己主張、自己顕示、興味のあることの過大視など＜自己中心性による表現＞
- ・ 言葉を喋り出すと瞬く間に語彙数が増えるなど＜猛スピード的な表現機能の獲得＞
- ・ 自分の思いを外部からの期待との間で調整しながら、表現する＜自己表現の自己統制化＞
- ・ 周囲のより良い表現に気づき、これを受け入れ共有する＜表現の社会化＞

③ 表現で育てようとする事

- ・ 周囲の様々な刺激や、体験で、ものを感じ取る＜感性＞を育てる
- ・ 自分なりの感じ方や考えをもって、それを外へ表そうとする＜意志＞＜意図＞＜態度＞を育てる
- ・ 自分の思いを様々な表現することを通して物への＜認識＞や、表現の＜技術＞を育てる

2 伸び伸びと自己表現する保育の展開

幼児の表現の育ちは、表現を豊かにしながら、その子の心を豊かに育てるのが目的である。それだけに、幼児に何をさせるかという育ての内容や、どう体験させるかという育ての方法などに熱心になる前に、まず、幼児の内面の心の動きに向けて熱心になることが基本である。生活の中にある幼児の様々な表出をも「改めて表現している」と捉える教師の幼児の見る目が問われることになる。そのためには、何よりもしっかりとした幼児理解がなければならない。今、何に興味があり、何が幼児の中に育ちつつあるかを絶えず幼児側に立って理解することが必要である。幼児の活動は、様々な発達の側面が相互に

関連しながら成り立っていく。ひとつの遊びの援助を考える時、単に表現という視点のみではなく、遊びへの取り組み方、イメージのもち方、その伝え方、表し方、教師との関わり、友達との関わり、言葉、その他技能的な側面など様々な視点から、その育ちを総合的に捉えて行くことが必要であり、そうすることで、初めて幼児側に立った保育の展開ができる。つまり、真に幼児を理解し、保育を展開しようとすればするほど、保育は、必然的に総合的にならざるを得ない。表現は、それらを理解するひとつの窓口である。

(1) 表現を育てる環境の工夫

① 感動が得られる環境

幼児が「楽しい」「面白い」と感じ、興味・関心を抱き、主体的にかかわれるような環境があること。その際、表現は知的な思考を伴った感性によって成り立つことが多いことを考慮しそのことを大切に環境づくりをする。

② その子なりの表現を楽しむ環境

一人一人が表現したい欲求を満たせる自由な雰囲気、応答性のある環境であること。どんなに楽しい経験でも表現したくなる環境がなければ、膨らんだ気持ちは、しぼんでしまう。様々な表現することが楽しく感じられる環境であることが大切である。

③ 感動したことを受け止める友達や教師がいること

幼児は取り巻く環境の中からある刺激を受け、活動を起こす。その活動に友達や教師が共感し、共に活動を起こすことによりその活動は深まったり、広がったりし、幼児の成長・発達に意味のある体験となる。

④ 表現意欲を満足させる素材

幼児の興味を引き、積極的な働きかけを促す素材、手ごたえを感じつつ取り組むことができる素材など、幼児にとって魅力的な素材のある環境づくりをする。

(2) 自己表現を育てる援助の工夫

① その子なりの表現を大切にする

幼児の自己表現は、直接的で素朴な形で行われることが多く、時には、泣くことや一見乱暴に見える行為などその時の自分の気持ちを訴えることある。幼児のそのような表現を受容し、幼児自身の表現しようとする意欲を受け止め、幼児の生活の中でその子らしい様々な表現を楽しむことができるように援助する。

② 表現行為の読み取りを丁寧に

幼児の行為には、必ず意味がありその意味や表現の育ちの状態をも読み取ることが大切である。大人の価値観で指導してしまうのではなく、幼児の行動を受け止めながら表現の仕方を示し、より良い方向を自ら選べるように援助する

③ 教師と幼児との信頼関係が成立していること

幼児は、自分が教師に受け入れられているという安心感や信頼感を持つことで不安感がなくなり安心した情緒を持ち自分の思いを話せるようになる。また、自分なりの表現が友達や教師から受け止められる体験を繰り返す中で安心感や表現する喜びを感じ、表現への意欲が高まり自己表現できるようになる。

④ 幼児の心の動きから表現を育てる。

日常生活の中で美しい自然現象や、新しい素材やいろいろな事に出会って心が動き幼児の持っている様々な表現方法で表そうとする。このようなことを通して具体的なイメージを広げたり深めたりするので、一人一人の幼児と接し教師自身も豊かな発想をもって応じることで、幼児のイメージが広がり自己表現ができるようになる。

⑤ 表現の方向性とプロセスを大事に

その子なりの手段で、感じ、考えを表そうとする態度を大切にし、表現の結果の良し悪しよりも、表現の内容や、表現の工夫といった表現性を見守り、援助して育てる

3 幼児に楽しく関わらせる地域行事

(1) 地域行事の教材化

地域行事は、幼児にとって非常に身近でかかわりが深いので幼児は興味関心を持ち、表現につながりやすい。また、イメージを共有することが容易で、多様な思いや願いを膨らませ生き生きと活動することを促すことができる。幼児の実態を把握し教師の願いを組み入れ教材化することが大切である。

(2) 地域行事の種類

表 1 与那原町の与那原東幼稚園校区の幼児に関する主な行事

区	江口区	板良敷区	当添区
行事	・体験活動（H13年） （黒糖作り、豆腐作り） ・与那原祭りの綱作り ・グランドゴルフ大会 ・文化講演会	・区の綱曳（旧6月26日） ・エイサー（旧7月17日） ・観月会（獅子舞） ・3世代グランドゴルフ大会	・ハーリー ・エイサー ・納涼祭り
区	中島区	港区	
行事	・グランドゴルフ大会 ・与那原祭りの綱作り ・与那原祭り前夜祭のパレード参加	・与那原祭りの綱作り ・PTAグランドゴルフ大会	

(3) 幼児が楽しめる地域行事

① 与那原の大綱曳

与那原の大綱曳の起源は、尚永王の時代（1573～1588）までさかのぼるといわれる。綱の由来は全沖縄に流布し、与那原でも次のように伝えられている。

「ある年、稲が不作のうえに害虫が発生し人々は餓死寸前であった。途方にくれた村頭はアムトの下に捨てた老人）に相談したところ、村人総出で鐘、太鼓を打ち鳴らし、大声をだしながら綱を曳くようにと教えてくれた。この事をきいた王は毎年綱を曳いて豊年祈願することを奨励し、老人を捨てる事を禁じたといわれている。」

与那原大綱曳は、本来旧暦6月26日に行われ、町内の拝所に来年の豊年や住民の健康を祈願してから曳かれた。しかし、農家の減少や生活環境の変化、観光宣伝要素が強くなったことなどから、26日以降の日曜日に改められた。そこで、26当日は豊年、健康祈願とともに綱曳の延期を報告する。「日延べの御願」が実行委員会によって行われる。

② ハーリー（海神祭）

明治時代から行われたというのが記録になく不明。旧5月4日、漁民並びに区民が集まり、久茂久岩拝所で航海安全、豊漁の祈願を行って後、爬竜船競漕が行われる。旧与那原が伝馬船によるハーリーであったのに対し、当添では漁船によるサバニバーリーであった。現在は、漁船としてのサバニでなく、ハーリー専門のサバニを使用している。

③ エイサー、獅子舞（板良敷）

歌の節は七夕、盆と同じで、部落拝みを済ませた後、ノロ殿内で獅子を舞わせてからエイサーを踊った。最初に獅子が作られたのは、山城康源氏より3代前の祖先の頃で、石大工の具志堅という人が作ったといわれ、当日は部落の発祥の与那嶺殿と共にこの2ヵ所、そして、東西の石獅子跡（現在はない）を回る。現在は、公民館で老人会を中心に、婦人会、青年会総出で行われ、獅子の祭（拝み、獅子舞）から始まる。現在は、公民館で行っているが、以前は広場に舞台を作って行っていた。

IV 保育実践

1 活動名

「つなひきたのしいな」

2 活動設定の理由

(1) 教材観

幼児が伸び伸びと自己表現できるようになるには、生活の中で「おもしろそう、やってみたい」等のいろいろな出来事に出会うことが大切である。その中で、幼児は、いろいろな思いが膨らんで生活が楽しくなり、その楽しさをなんらかの形にして表現していく。幼児は園生活の中で心を動かして表現したくなるような体験を豊富に持たせることで、自分の表現に自信をもち、表現する喜びを味わえるようになる。また幼児は身近な環境と十分かわる中で、そこから得た感動を教師や友達と共感していく。そこでは感じたことをお互いに伝え合うことが大切であり、感動体験を共有していく中で、園生活で、表現する喜びを十分味わわせることが重要である。そこで、今回は幼児の最も身近にある地域に目を向け、幼児に親しみのある「綱曳」を通して伸び伸びと自己表現する楽しさを味わえるようにした。「綱曳」は与那原の地域行事の中で最も由緒ある行事であり、楽しく表現できる行事である。それを追体験することで、さらに地域行事に興味関心が持てるようになる。また、慣れ親しんでいるので楽しい表現を引き出しやすい。そこで、実際に綱曳資料館見学を行い本物の「綱」に触れる体験や「キンコ（金鼓）の音」や「ボラの音」を聞かせ「綱曳」のイメージを持たせることにした。そして、幼児が実際に「綱」を曳いて思い思いの表現を楽しむ体験を通してより感動体験が豊かになり、表現する楽しさや喜び、充実感を味わえるようにした。

(2) 幼児観

本園の幼児の実態を把握するために、保護者に対し実態調査を行った(図1)。その結果「保育園や幼稚園を経験し入園して来る」幼児が78%で、「保育園を経験せず初めて入園する幼児」が22%となっており、殆どの幼児が集団生活を経験し家庭から直接入園する幼児は少ないことがわかった。また地域の人とのかかわりでは、「兄、姉と一緒に登園して来る」幼児が36%「車で送られる」幼児が32%と多く、「近所の友達と一緒に登園する」幼児は12%と少ない。その事からも、共働きが多く近所に友達が少ないことが伺える。また、降園後の幼児の遊びの様子を見ても「家族の人とお家の中で遊んでいる」幼児が54%と多く、休日の過ごし方においても「家族と出かける」幼児が70%と多くなっている。このような状況から地域の人とのかかわりが希薄になっていることがわかる。また、「知っている地域行事は」との問いに、「綱曳」が98%で、続いてハーリー、エイサーの順となって「綱曳」は殆どの親が知っていて関心がある事がわかった。また、親子で「地域行事に参加したことがありますか、では、「ある」が68%

調 査 項 目	考 察
問1 地域行事に参加したことがありますか。 1 ある 68% 2 ない 32% それはなぜですか ・会社や仕事の都合で参加できない 14% ・あまり関心がない 9% ・その他 7% 3 無回答 2%	・半数以上が、地域行事に参加した事がわかる。
問2 地域行事に参加した人の中で次のどの行事に参加しましたか。(複数回答・問8で、「ある」と答えた方38名中) 1 綱曳 92% 2 ハーリー 26% 3 獅子舞 0% 4 エイサー 18% 5 グランドゴルフ 11% 6 その他 11%	・「綱曳」が92%と最も多く綱曳に、関心がある事がわかる。
問3 親子で地域行事に参加しているものに○をつけて下さい。複数回答38名中 1 綱曳 78% 2 ハーリー 16% 3 獅子舞 0% 4 エイサー 13% 5 グランドゴルフ 13% 6 その他 11%	・「綱曳」は半数が、親子で参加している事がわかる。
問4 地域行事に参加した後、お子さんはどうでしたか。(38名中) 1 喜んでた 82% 2 感動していた 5% 3 あまり関心を示さなかった 0% 4 その他 5% 5 無回答 8%	・地域行事に参加して幼児が喜んでた事がわかる。
問5 お子さんに地域行事の良さや大切さ由来など話して聞かせた事がありますか。 1 ある 27% 2 ない 71% 3 無回答 2%	・聞かせた事がないが多く由来がわからないと言う親もいた。

図1 家庭における地域行事へのかかわり方に関する実態調査と考察

で、参加した経験を持っていた。しかし、中には「参加したことがない」が32%で、関心があっても仕事の都合で参加できない場合や、地元出身でない父（63%）母（73%）が多く地域行事を知らない場合もある。また、「地域行事に参加した後の子供の様子」については、87%の幼児が喜び、あるいは感動していたと答え、幼児にとって地域行事は身近で最も親しみやすいものであることがわかった。また、「地域のよさや大切さ由来等話して聞かせたことがありますか」の問いに、71%の親が聞かせた事がないと答えていて、由来が分からないと答えた父母も多かった。また、「子供に、地域行事を大切に知らせたいと思いますか」との問いでは、93%の父母が大切に知らせたいと答えていた。以上のことから父母は地域行事について大切に、幼児に関心を持たせたいと思っていることがわかった。

(3) 指導観（教師の意図性）

地域行事は人々をつなぎ合わせ、生活に根付いて伝承されてきた文化であるので、幼児が地域の行事に積極的にかかわり、地域のよさを知り地域に誇りを持つことが大切である。地域行事に楽しくかかわる工夫をし、幼稚園生活に取り入れることで、幼児はより地域行事に興味関心を示し、そのことを家族に伝えたり、地域の出来事を教師や友達に話したりする。このことを通して、幼稚園、家庭、地域が連携していくことにつながる。そこで、楽しく地域行事（綱曳）とかかわる色々な体験を通して、伸び伸びと自己表現できる幼児を育成できるよう環境の工夫を試みた。そのひとつに「綱曳の由来や、いわれ」について、地域人材を活用し、どうして与那原に「綱曳」が行われるようになったのかなど、地域の方から話を聞いたりする事で、より地域に関心を持てるようにした。また、幼児自身がいっていることや聞いて分かったことなどを、いろいろな方法で表現できるようにした。更に、「綱曳」についての絵本の読み聞かせをしたり、綱曳資料館を尋ねて、実際に見て触れる体験をさせた。特に、本時では綱曳の場を設定し、幼児に実際に体験をさせたり、キンコ隊、メーモーイ、旗頭で表現して遊ぶ体験を取り入れることにした。

このように地域行事を幼稚園生活に取り入れ楽しくかかわる援助の工夫をすることで、幼児は、自分が体験して分ることや、「おもしろそう、やってみたい」と興味関心を持つことで生き生きと活動に取り組み、いろいろな方法で表現できるようになる。その事を友達や教師に認められることで自信となるので、幼児一人一人が素直に表現することを大切に、表現する楽しさや喜び、充実感を味わってほしいと願い援助の工夫を試みた。

3 保育の目標

- ・ 与那原の綱曳行事を教材化し、実際にキンコ隊や旗頭、メーモーイをしながら地域行事(綱曳)に楽しくかかわることを通して、伸び伸びと表現する楽しさを味わわせる。
- ・ 友達と協力して綱曳を楽しみ満足感を味わわせる。

4 保育の視点

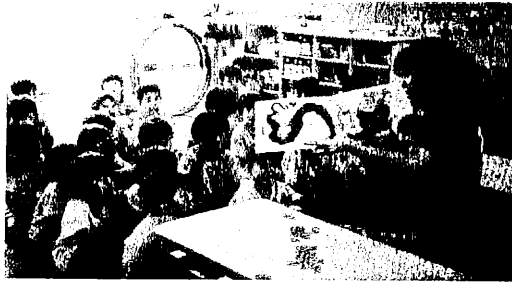
地域行事に楽しくかかわることを通して、伸び伸びと自己表現する楽しさを味わわせる援助の工夫を探る。

- (1) 地域行事を教材化し、それに楽しくかかわる援助の工夫
- (2) その子なりの表現を認めて生かす援助の工夫
- (3) その子なりの表現を引き出す環境構成の工夫

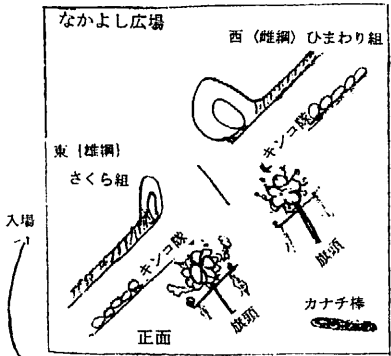
5 援助の工夫

- (1) 地域の人材活用（行事の由来を聞かせる）
地域に住んでいて土地の様子や、歴史に詳しい方(教育ボランティア)を招いて、行事の由来を話してもらい、地域のよさを知らせ楽しく活動に取り組めるようにする。
- (2) 地域の施設活用
実際に見たり触れたりする体験を通して感動を豊かにする。
- (3) 実際に表現して遊ぶ
イメージを膨らませ表現する楽しさが味わえるようにする。

6 活動の実際 (つなひきたのしいな)

月 日	ねらい	◎幼児の活動 ★環境構成	教師の援助 ○楽しくかかわる援助 ●表現を認めて生かす援助	評 価
5 月 30 日 (木)	・絵本の読み聞かせを通して、綱曳に興味関心を持たせイメージを豊かにする。 	◎「かえるのつなひき」の絵本を見る。	○「綱曳」がどういうものなのか、絵本を通して共通理解を図る。(沖縄独自の綱曳に気づかせる) ○綱曳が、なぜ行われるようになったか絵本を通して知らせる。 ○絵本の中の方言は、幼児がわからないようであれば、わかるように説明をしながら読み聞かせをし、「綱曳」に興味関心を持って楽しく絵本を見ることができるようになる。 ○ 幼児が自分達も「綱曳したいなー」と、遊びたくなるような雰囲気をつくる。 ●幼児のつぶやきなどを受け止め共感する。	・「綱曳」の絵本の読み聞かせに対して、興味関心を持って見たり聞いたりしていたか。 ・絵本を通して「綱曳」のイメージを持つことができたか。
6 月 11 日 (火)	・地域の人から、「綱曳」の由来を聞き、地域に親しみをもち地域のよさを知る。 	◎地域に住んでいる方から「綱曳」の由来について話を聞く。 ◎昔の与那原の土地の様子を聞く。 ◎なぜ、綱曳が行われるようになったか、話を聞く。 ◎なぜ、今も綱曳が行われているのか、話を聞く。	地域人材活用 ○幼児が地域や地域行事に興味や関心を持てるように地域をよく知る方を招いて話をしてもらおう。 ○なぜ、与那原で綱曳が行われるようになったか、昔の与那原の土地の様子や生活の様子を幼児に分かりやすく話してもらおう。 ○与那原の地域のよさに気づかせ、自分の住む地域に愛着を持たせる。	・地域の人から、「綱曳」の由来を聞いて、なぜ、「綱曳」が行われるようになったかや、地域に親しみをもち、地域のよさを知ることができたか。
6 月 18 日 (火)	・本物の綱を見たり触れたりする体験を通して感動体験を豊かにする。 	★地域施設活用(綱曳資料館見学) ◎本物の綱や旗頭、支度、カナチ棒を見る。 ◎綱作りのビデオを見る。 	○本物の綱、旗頭、支度、カナチ棒等を見たり、触れてその感動を共感したり、特徴に気づかせる。 ○綱を作る様子をビデオを見せ、より綱曳に興味関心を高める。 ●幼児のその子らしい様々な感動やつぶやきを受け止め、一人一人の興味関心のあり方を認めたり共感したりする。 ○町民皆で力を合わせて作り上げることの大切さやよさに気づかせ再構成に生かす。	・綱曳資料館を見学して本物に触れる体験を通して感動体験を豊かにすることができたか。
6 月 20 日 (木)	・本物のキンコ隊の音やタイコの音を聞いてイメージを豊かにし、音やリズムに合わせて表現を楽しむ。	★地域をよく知る方を招き、本物のキンコ隊の音やタイコの音を聞かせる。 ◎実際にキンコ隊になって表現して遊ぶ。 ◎タイコに合わせて踊ったり、思い思いに表現して遊ぶ。	●リズムや拍子に合わせてキンコやタイコを打ち、それに合わせて踊ったり思い思いに表現している様子を見守り楽しさを共感する。 	・キンコの音を聞いてイメージを豊かにし、リズムに合わせて表現を楽しむ事ができたか。
6 月 24 日 (月)	・旗頭を作り、思い思いに表現して楽しむ。	★幼児の表現意欲を受け止め、幼児と共に環境を再構成する。 ◎旗頭を使って表現を楽しむ。	○綱曳がより楽しくなるように旗頭を作り直し表現意欲を高めるようにする。 ●一人一人の表現する様子を見守り、その子なりの表現を認め、楽しさを共感する。	・旗頭を使って思い思いに表現を楽しむ事ができたか。
6 月 27 日 (木)	・教師や友達と一緒に、イメージを共有しながら楽しい綱曳ができるよう話し合いをする。	◎キンコ隊や、旗頭、メーモーイになって表現を楽しむ。 ◎自分がやってみたいものを決める。 ◎それぞれのグループに分かれて表現を楽しむ。	○表現遊びにあまり興味を示さない幼児は友達の応援をさせたり様子を見守るようにする。 ●自分らしさを表現しているところは誉めてあげ楽しく自己表現できるようにする。	・教師や友達とイメージを共有しながら話し合いをすることができたか。
6 月 28 日 (金) 本時	・友達と一緒に、リズムや拍子に合わせて思い思いに表現しながら綱曳を楽しむ。 	◎リズムや拍子に合わせて表現を楽しむ。 ◎友達と協力しながら綱曳を楽しむ。 	○綱曳がより楽しくできるように、全クラスで取り組む。(ティーム保育を行う) ○キンコ隊、旗頭、メーモーイ、実際に綱を曳く、応援するなど、一人一人の興味関心のあり方を認めその子らしい様々な表現を楽しむように援助する。 ●幼児がそれぞれの持ち場で頑張っていたことを認め、夏休みに行われる与那原の大綱曳に期待や関心が持てるようにする。	・友達と一緒に、リズムや拍子に合わせて思い思いに表現しながら綱曳を楽しむことができたか。

7 検証保育指導の実践

ね ら い	・友達と一緒に、リズムや拍子に合わせて思い思いに表現しながら綱曳を楽しむ。	内 容	・リズムや拍子に合わせて表現する。 ・友達と協力しながら綱曳をする。
生活の流れ	幼児の活動の展開	☆ 環境構成	★ 教師の援助及び配慮
8:15 ○登園する。 9:30 ○集まり 9:45 ○綱曳を楽しむ	◎所持品の整理をする。 ◎朝の仕事をする。 ◎準備をする。 ・衣装を着け準備をする。 ◎今日の活動「綱曳」について、話し合う。 ・綱曳の時の自分がやりたい役割や進め方を確認する。 ・綱曳の時の約束や、気をつけることを話し合う。 ・それぞれのクラスで旗頭、キンコ隊、カナチ棒、綱を持つ人の順に並ぶ。 ◎スネーイ（綱曳行事に関わっているAさんのキンコの音に合わせ入場する） ・はじめに東（さくら組）の旗頭、キンコ隊が入場する。 ・続いて西（ひまわり組）の旗頭、キンコ隊が入場する。 ・所定の場所にきたら、キンコ隊の音に合わせて各チームの旗頭を踊らせる。 ・次に、西（ひまわり組）の雌綱が入場する。 ・続いて、東（さくら組）の雄綱が入場する。 ◎ガーエー（リズムや拍子に合わせてお互いの旗頭を誇示しながら、踊らせ表現）を楽しむ。 ・キンコ隊の音に合わせ、掛け声「サー、サー、サー、サー」タイコ「トン、トン、トン」の、リズムにのって西、東の旗頭が元気よく入場し旗頭を踊らせる。西の旗頭と東の旗頭がガーエーをする。 ◎綱曳を楽しむ。 ・東、西の綱を寄せてくる。（カナチ棒も一緒に入場する） ・カナチ棒を入れ、教師のベルの合図で引く。 ・教師のベルの合図で引くの止め、タイコの合図でその場に座る。 ・勝負の結果を発表する。 ◎綱曳を2回行う。 	☆綱曳で使う装具（キンコ、パーランクー、和ダイコ）旗頭、衣装等を準備し綱曳への表現意欲を高めるようにする。また、キンコ隊の音のテープを流し綱曳の雰囲気づくりをする。 ☆綱曳をより楽しく出来るように全クラスで取り組みチーム保育を行う。   ① 旗頭を先頭に、キンコ隊、綱の順に入場する。 ② 入場が終わったら、お互いの旗頭、キンコ隊が前に出てガーエーをする。 ③ 皆で綱曳をする。	★一人一人に笑顔で挨拶や言葉かけをしながら健康観察をする。 ★皆で朝の仕事が頑張っているように励ましたり一緒に手伝ったりする。 ★今までの綱曳についての話をし、一人一人のイメージや思いをだしやすいようにしながら、今日の活動に期待が持てるようにする。 ★キンコ隊、旗頭、メーモーイ、綱を曳く応援するなど、一人一人の興味関心のあり方を認めその子らしい様々な表現を楽しめるように援助する。 ★キンコ隊に合わせて掛け声や手拍子をして楽しく表現できるようにする。 ★幼児の表現する様子を見守り、認めたり励ましたりする。 ★地域の綱曳行事に関わっているAさんにキンコ隊をお願いし、雰囲気を高める。 ★父母の方に補助員を二人お願いし安全面に配慮する。 カナチ棒の所、綱の両サイド幼児が転んだ時に補助してもらおう。 教師3人も援助に加わり盛り上げる。 ★「サーサーサーサー」と掛け声をかけ、幼児が表現したくなるような雰囲気づくる。 ★（掛け声）トン、トン（タイコの音）ハーイヤ（子供の声）トントントン、ハーイヤ、（綱を高く上げて下げる）。 トントントン、ハーイヤで綱を寄せる。 ★綱を曳いているときは「サーサーサーサー」と掛け声は絶やさないように、綱曳を盛り上げ最後まで頑張っているように援助する。 ★皆で楽しい綱曳ができるように、始めと終わりの合図はしっかり守らせるようにする。 ★勝った喜びに歓声を上げたり、身振りや動作、踊ったり、手をたたいたりして思い思いに身体全体で表現しているのを認め教師も共に喜び合う。 ★負けた組は、悔しい思いをする幼児がいると思うが、勝ち負けをちゃんと知らせ、手拍子で相手チームを称え、「次は頑張るぞ」と意欲を持たせるような言葉かけをする。 
10:05	◎話し合い。		
10:15	・綱曳はどうだったか、楽しかったこと、頑張ったこと等を話してもらう。		★幼児一人一人がそれぞれの持ち場で頑張っていたことや、思い思いに表現して楽しんでいた事を認め、夏休みに行われる与那原の大綱曳に期待や関心をもつようにする。

8 保育の省察

(1) 幼児が地域行事に楽しくかかわる援助の工夫から

- ・ 導入の時に、「綱曳」について、今までやってきた事、「綱曳の由来など」を話し、イメージや思いを出しやすいようにした。一人一人の幼児が、「皆で綱曳を頑張るぞ」という意欲がみられた。
- ・ 綱曳の役割で、キンコ隊や、旗頭をもつ人、カナチ棒を持つ人、綱を持つ人は、できるだけ幼児の希望をつのってさせるようにした。その為、幼児の表現意欲が高まった。
- ・ スネーイ（入場）の前に、各々の役割を確認し、目的意識をもたせることでリズムや拍子に合わせて思い思いに表現を楽しんでいた。
- ・ スネーイ（入場）の方法を、旗頭、キンコ隊を先にし、それぞれの役で表現できるようにすることで、喜んで表現している姿が見られた。
- ・ 「綱曳」で負けた組が「本気を出して頑張ったけど負けた」と悔しそうにしていた。今日は負けただけど「皆が一生懸命頑張った」ことが大事ということを全体場で話し合うことも必要だった。

(2) 表現を認めて生かす援助の工夫から

- ・ キンコ隊、旗頭を持つ人や、綱を曳く人、それぞれの役割でその子なりに表現している様子を認めるようにした。そのため、一人一人の幼児が自信を持って自分の役割にひたって表現することができた。

(3) 表現を引き出す環境構成の工夫から

- ・ 始まる前に「キンコ隊」の音や「綱曳」のテープを流すことで、気持ちの高まりが見られた。
- ・ 入場（スネーイ）の時、キンコ隊はテープでなく本物のキンコの音に合わせることで、伸び伸びと自分なりの表現を楽しんでいた。
- ・ 地域の人材を活用し本物のキンコ隊の衣装でキンコの音やリズムを聞かせ、綱、旗頭、衣装も本物に似た状況を作り出し、表現しやすいようにすることでその物になりきって表現を楽しんでいた。
- ・ 「綱曳」で勝った喜びの表現をもっと時間をかけて思い思いの表現を出させてもよかった。

9 幼児の変容

(1) A君の場合

① 入園の頃の姿

- ・ 泣いて登園することが多く、集団の中では、なかなか話しをしないおとなしい幼児で何をするにも自分からあまり参加しない。

② 検証保育（6月28日）の時の姿

- ・ タイコをしたいとの思いはあったようだが、皆の前でやるということに、まだ自信がないようで、「キンコ隊をやってみたい子」と聞いても手を挙げなかった。しかし、皆で綱曳することにイヤがる様子は見られなかった。
- ・ 綱曳の時、並ぶのも準備をするのも最後であるがA君なりに綱曳をしたいという姿が見られた。綱を曳いている時、「サーサーサー」の掛け声と共に首を振って表現し、一生懸命曳いていた。
- ・ 片付けも皆と一緒に最後まで頑張ってやっていた。

③ 考察

- ・ A君は入園の頃は集団に慣れにくい面もあったので、一対一で話をしたり出来るだけ、かかわりを多くもつようにしたことで、自分の思いも話せるようになった。
- ・ 「綱曳の絵本」や実際にキンコ、タイコの音を聞かせたり、綱曳資料館見学を行うことで、綱曳への思いが高まり友達と一緒に綱曳に参加できるようになった。
- ・ お家の人に、「綱曳は害虫から守る為にやるんだよ」「カナチ棒は水につけてあるんだよ」と自信ありげに話していたとの便りで、その子なりに綱曳に対する興味関心が高まった事がわかった。
- ・ まだ、自分のやる事に自信がもてない面もみられるが、A君のよさを認め自信につなげるような援助をしていきたい。

(2) 保護者の感想から(抜粋)

・綱曳の由来について、少し興奮気味に話してくれました。その後、「綱曳の由来」が書いてある絵本を借りてきて一緒に読みました。私の田舎でも年に1回綱曳があって、何度か、親子で曳いたことがありますが、由来等については、考えたことがなく、今回、親子で学ぶことができました。

・綱曳をやったことを楽しそうに話す中で西（イリ）、東（アガリ）と言った方言を混じえた言葉をちゃんと伝えていました。沖縄の歴史に触れているんだな—と感じました。

・綱曳資料館から帰ってきて、「母さん、綱曳資料館ってすごいぜ、母さんよりでっかい雄綱と雌綱があったぜ!」とか、写真や、綱曳に使うものが、たくさんあったことを話してくれました。数日後、「おれ、綱曳の時にタイコを叩くんだよ」と、とても嬉しそうで、弟達と色々な物（ビニールひもや、縄跳び、タオルケット等）を使って綱曳ごっこを楽しんでいました。

・園で綱曳をしたことや、綱を棒で一つにして綱曳が始まること、綱曳は、自分が生まれるずっと前からあること等を話していました。

考察

- ・ 地域行事に楽しくかかわらせる工夫をしたことで、幼稚園で体験したことをお家の人に伝えたり、言葉で表現できる幼児が増えてきたことが多くの保護者の感想から分かった。
- ・ 幼児に感動体験を多く持たせることで、伸び伸び自己表現ができるようになることが、保護者の感想からわかった。

V 研究の成果と今後の課題

1 成果

地域行事を教材化し、地域の施設見学・人材活用等実際に見たり触れたりする体験の工夫をすることで、幼児は心が揺さぶられ、表現意欲が高まり、その子らしい様々な表現を楽しむことができた。そのことから、「伸び伸びと自己表現する」幼児を育てるために、次の事が大切であることがわかった。

(1) 地域行事を教材化し、それに楽しくかかわる援助の工夫から

- ・ 地域行事は、幼児の心を揺さぶり、表現意欲の高まりや、様々な表現を楽しむことができた。
- ・ 地域の人材を活用することで、地域により関心を持たせ、生き生きと活動に取り組み、イメージ持たせながら、いろいろな方法で表現を楽しませることができた。
- ・ 地域の施設(綱曳資料館)見学をして実際に見たり触れたりする体験を取り入れることで、「おもしろそう」「やってみたい」との幼児の表現意欲が高まった。

(2) その子なりの表現を認めて生かす援助の工夫から

- ・ 幼稚園や家庭双方で幼児の表現を受け止め、共有できた。表現することの喜びを十分に積み重ねる体験が、更に豊かな表現へとつながっていった。
- ・ 資料館見学後、自分達も綱曳で遊びたいとの姿が見られたので、幼稚園にある綱や旗頭を幼児と共に作り直したり環境を再構成することで、その子らしい表現を楽しませることができた。

(3) その子なりの表現を引き出す環境構成の工夫から

- ・ 幼児一人一人の興味・関心は多様で、表現方法も場も多様である。表現しようとする心を受け止め、一人一人に応えることのできるような応答的な環境及び環境構成が大切であることがわかった。

2 今後の課題

(1) 綱曳以外の地域素材を研究し教材化することで、更に、幼児の表現力を高めていきたい。

(2) 親子で楽しく地域行事にかかわる工夫をすることで、更に、幼児の表現力を高めていきたい。

<主な参考文献>

文部省	『幼稚園教育要領解説』	フレーベル館	1999年
岸井勇雄・小林龍雄・高城義太郎・朽尾勲	『現代幼児教育研究シリーズ』	チャイルド本社	1990年
与那原町役場	『与那原町史』	与那原町史編集委員会	1988年